



聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 389 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

発行人：牧師 司祭ステパノ卓志雄
編集人：リチャード倉辻明男
セバスティアーン林圭佑
ガブリエル新井悠

「負け組に宿る光 — クリスマスが示す逆転の希望」

牧師 司祭 ステパノ 卓 志雄

「マリア」「ヨセフ」「羊飼いの」「東方の博士」・・・、クリスマス物語を彩るこれらの人物は、実は当時の社会から「負け組」(Loser)と見なされていた人々であった。ローマ皇帝アウグストゥスやユダヤの宗教指導者のような権力者ではなく、弱く取るに足りない者たちこそが、神によって救いの物語の中心に置かれたのである。

名もない少女だったマリアは、神の言葉に謙虚に従いメシア誕生の主役となった。しかし、婚約直後に身ごもったことで周囲から罪びと扱いを受けただろう。婚約者ヨセフは貧しい大工で、名譽も地位もない男性であった。それでもヨセフはマリアを拒むことなく、共にベツレヘムへ赴き幼子イエスを迎えた。

さらにヘロデ王の幼児殺害の命令から逃れるため、二人はエジプトに落ち延び難民として暮らすことになる。この困難を乗り越えられたのは、神の声に耳を傾け、従い続けたからである。

天使が最初に訪れた羊飼いたちも、社会の最下層に属していた。美しく描かれることの多い羊飼いだ、実際の彼らの仕事は「きつい・汚い・危険」で、天候に左右される過酷な生活だった。安息日にも働かざるをえず、律法を守れない者として軽視され、神殿で償う機会もないまま「罪びと」と見なされていた。不潔で教養がないとされ、裁判の証人にもなれなかった。

しかし、失うものがない彼らは心が低くされ、誰よりも早く神の声を聞くことができた。羊飼いたちは急いでベツレヘムへ行き、幼子イエスを礼拝し、喜びを告げ知らせた。

さらに東方の博士たちは「三人の王」と誤解されがちだが、実際には異教の占星術師であり、ユダヤ社会では不浄とされた人々であった。それにもかかわらず、星の動きに神のしるしを讀み取り、長い旅をいとわず幼子イエスを探し出して礼拝した。この出来事は、神の救いが特定の民族や階層に限定されるものではなく、世の基準では取るに足らないとされる者にも等しく開かれていることを示している。

福音とは「すべての民に与えられる大きな喜びの知らせ」である。しかし、自らを「勝ち組」と思い上がる人々は神の声を聞き取りにくい。多くを持つゆえに神を必要とせず、心が閉ざされてしまうことがある。一方で、この世で疎外され、低くされた人々の心は開かれており、神の慰めと喜びを受け入れる備えが整っている。

イエス・キリストのご降誕の核心は、この「へりくだる心」にある。幼子イエスの前にひざまずくとき、初めて真の喜びと平和が与えられる。神は「負け組」と呼ばれた人々を用いて救いの業を進められ、今もまた、へりくだった心で神に近づく者

を喜んで受け入れてくださる。二千年前、イエスは馬小屋という最も低い場所にお生まれになった。涙と悲しみ、苦しみのただ中に来られたお方である。そして今も、社会の片隅にいる人々の間に來てくださり、涙をぬぐい、癒しと力を与えてくださる。

クリスマスとは、神が弱く小さくされた者に寄り添われる出来事を思い起こす時である。私たちもまた、自らの弱さを神の前に差し出すとき、幼子イエスがもたらす平和と喜びにあずかる。降誕の光は、へりくだった心をもって神に向かうすべての人に今も注がれている。

東京教区の第一四七回(定期)教区会を経て、東京教区と北関東教区が「東日本教区」として新たな歩みを始めようとしている今、この節目に「負け組に宿る光 — クリスマスが示す逆転の希望」に思いを巡らし、これからの新たな宣教の道を、共に歩んでいくために。



教会の諸活動報告

自然と歴史と教会がくれた特別な時間
テレサ田知殿（ジョン・ジウン）

小笠原の旅二〇二五では、澄んだ海と山と空に囲まれた自然の中過ごした五日間は、小笠原の複雑な歴史を肌で感じられるような時間になりました。特に砲台の残る遺跡では、美しい夕日を眺めながら、かつてこの空に向けて大砲を撃たなければならなかった人々の思いを想像し、複雑な感情を覚えました。五回目の参加となった今年も、仲間との語らいや小笠原聖ジョージ教会の信徒の皆さんとの交わりを通して、自然と人と信仰が結びついた共同体の温かさを実感しました。さらに聖ジョージ教会での洗礼式では当日の朝に仲間と一緒に貝殻と海水を集め、準備の段階から関わることでできたことが大きな恵みとなりました。旅の中では、移動の船内や宿での分かち合いの時間も多く与えられ、一人ひとりが小笠原で受け取った気づきや課題を語り合い、来年以降のプログラムの改善点や、自分たちが次の世代にどのように経験を手渡していくかについて話し合うこともできました。今回初めてスタッフとして参加したことで、参加者の安全管理や時間調整、プログラム全体の流れを意識しながら動く難しさややりがいも学びました。受け身ではなく、自分もこの旅を形づくる一員として責任を担うことで、信仰や教会とのつながりを以前よりも身近なものとして受け止めるようになりました。これらの経験を与えてくださったすべてのご支援に對しまして、心より深く感謝申し上げます。

交わりが形作る信仰

洗礼者聖ヨハネ 卓由眞

CEA（東アジア教会協議会）アジア青年大会では、各国の青年と信仰や生活について語り合い、アングリカン・コミュニケーションのつながりと、それぞれの置かれた環境の違いを強く実感した。特に、軍事クーデター後の不安定な状況にあるミャンマーの青年から、教会に通うことさえ命の危険を伴う現実を聞き、信仰の自由が当然ではないこと、自身の日々の生活における視野の狭さを痛感した。また、各国の青年たちとの交わりを通して自らの信仰の在り方を模索し、聖公会の仲間との出会いを通して自身の信仰の在り方を見いだした経験を分かち合った。私自身も「なぜ教会に通うのか」と問い続けた時期があり、信仰に対する問いが、国は違えど他国の青年と共有できることに安心を覚えた。青年との会話から、歩みを急がせるのではなく、互いの背景や痛み、喜びに目を向けつつ、共に考え合う姿勢が必要だと改めて感じた。他国の青年との交わりを経て、自身の信仰について問う機会になった。

CEAでは、他国の聖公会の現況について学び、教区や日本聖公会の在り方について考えるきっかけに



なった。私たちの信仰活動の中では神様と自身のつながりを意識することも重要だが、教会・教区・管区を支える共同体として、横のつながりをより大切にしていくべきと思った。特に、青年が少なくなっている教会がある現状や青年期におけるクリスマスチャンとしての自身とそうでない周りの青年と姿の乖離によって、教会に行くことや純粹に信仰を持つことに困難さを感じる青年も多いだろう。そのような時にこそ青年が「一人ではない」と実感できる、場所をつくっていききたい。そのように感じてもらえるためには、一度の大きな経験ではなく、継続した活動による土台づくりが必要である。なぜなら、自身の信仰というのは、私が今回経験したように、様々な人との交わりから醸成されていくからである。



今回の様々な青年との出会いを忘れずに、教会のみならず教区での活動でも、青年たちと神様とともに歩んでいきたいと思ふ。

中高生キャンプに参加して

バプテスマのヨハネ築田蓮

ぼくは、八月十八日から八月二十一日まで長野県シャロームで開催された、中高生キャンプ参加させて頂きました。今年のテーマは「なぜここにいる？」でした。それについて皆で考えてディスカッションをしました。普段なかなか会えない他の教会の同世代の人達、スタッフの人、牧師の荻原先生、上田先生と祈り、話し合い、遊び、食事を作ったりし

た四日間でした。湯の丸高原へハイキングに行った時は高橋主教も参加され、皆にアイスクリームを奢って下さりうれしかったです。



夜はキャンプファイヤーを囲んで、歌ったりゲームをしたり、マシユマロを焼いて楽しみました。来年も仲間と一緒に参加したいと思ひます。

洗礼・堅信、振返れば...

ヨナ前澤弘之

十一月十六日、午前の聖餐式で洗礼、夕の礼拝で堅信を受けました。思い起こせば小学校入学を機に子どもに足通しに出る娘の付き添いで教会に通い始め、多忙を理由に次第に足通しの遠のく娘を尻目に、教会の行事にせつせと参加するオヤジと化した。振返れば二十年が経過してしまいました。（決して苦節・ではありません。）いざれば洗礼をと考えていたが、「いざれというのは今でしよ」と言う天の囁きに背中を押され、この日を迎えることができました。当日は多くの方々から祝福され、感謝以外の言葉が見つかりません。皆さまありがとうございます。ごぞいませ。



これからも今までと変わりなく、またこれまで以上の交わりをお願いします。

バザーはチームワーク

クリスティーヌ青木かずこ

まずは、今年のバザーも多くのお客様をお迎えし無事に終了したことに感謝して、皆さまに御礼を申し上げます。ありがとうございました。

昨今のバザーの課題は、人手不足と献品の減少だと言われています。確かに、人手も足りないし、高齢化も進んでいます。献品の数も減っていますが、それでもバザー当日には多くの方々が手伝ってくださり、（恐縮ですが）他の教会の何倍も売り上げがあります。今回は、アンデレの皆さん、BS・GSの皆さん、その保護者の方々の底力とチームワークの良さです。

お互いにやるべきことをすぐに理解し、行動に移すことができる。長年培われた教会での信頼やノウハウが存分に活かされているのがバザーだと思います。もし人手が足りないなら、足りないように、献品が少なければ少ないなりに。できる範囲で無理なくバザーを楽しみましょう。そうした柔軟な対応ができるのも、皆さんのチームワークのおかげです。

毎年、アンデレバザーを楽しみにして、朝早くから並んでくださる方々がいらっしやる限り、私たちは新しいアイデアや試みを恐れず、果敢に挑戦していきます。私たちには、聖アンデレ教会という名監督と名コーチの卓司祭がおられるのですから。



「夏のデイキャンプ」のご報告

トマス牧野兼三

八月三十日（土）、聖アンデレ教会で夏のデイキャンプが開催されました。大人四十五名、子ども十六名の計六十一名が参加し、笑顔と笑い声にあふれる一日となりました。

朝のファミリール礼拝では、子どもたちの明るい歌声とともに神さまへの感謝をささげました。礼拝後のランチタイムには、食担当ボランティアによる炊き込みご飯がふるまわれ、心のこもった味に皆が笑顔に。しかし、プールを心待ちにしていた子どもたちは、すでにそわそわしていました。

午後は、子どもたちがプールや水風船、スイカ割りを楽しみ、一方、大人たちは三味線の調べに乗って登場した晴留家志んぶさんによる人情囃の落語に耳を傾けました。

最後は全員でビンゴ大会を楽しみ、コンテンツラリー奏楽チームによる歌の集いで会場が一つ



の集いで会場が一つになりました。猛暑の中、熱中症も怪我もなく無事に終えられた事を神さまに感謝するとともに、準備に尽力くださった実行委員とボランティアの皆さまに心より感謝いたします。

ベストリークリンデイ実施

八月三十一日、私たちの教会では「ベストリー（聖具室）大掃除」を行いました。

なんと〇〇年間、一度も手をつけていなかった引き出しの中からは、祭服や聖具がぞろぞろ……！



敬老の日を祝う

「長寿を祝う感謝の集い」九月二十一日に行われました。お祝いのカードと「握る十字架」をプレゼントとしてお渡し。

そして、近藤千晶さんによる津軽三味線の演奏と歌もあり、その美しい音色と歌声に心が癒されました。



コンテンツラリー奏楽チームと共に十一月二日午後「昼の祈り」が行われ、「コンテンツラリー奏楽チーム」

によるご奉仕がありました。初めての野外礼拝となりましたが、新しいリズムにのせた祈りの時が、観光で訪れた方々のまわりにもやさしく広がっていました。



墓地礼拝

二〇二五年十一月一日、青山墓地において、墓地礼拝をおささげしました。聖アンデレ教会では、この一年間（二〇二四年の諸聖徒日から本日まで）に、信徒十五名、教友三名、あわせて十八名の方々が神さまのもとに召されました。

私たちは、そのお一人おひとりの姿やお顔、言葉を思い浮かべながら、胸に深く刻まれた方々のために祈りをささげました。



各種お知らせ

障関連の働きについて

ベニヤミン 鶴飼良機

「障関連」というのは略さずに言えば日本聖公会東京教区「障がい者」関連活動連絡会ということになります。

「障関連」の前身は日高執事がリーダーであった東京教区の「障がい者プロジェクト」であります。

本年三月二十日、教区会聖餐式に引き続いて聖アンデレ主教座聖堂で行われた『「合理的配慮の提供」と教会の役割を学ぶ』という講演会は講師の大石忠様が聖公会における「合理的配慮の提供」はどの様になつていきますか、という質問を「障関連」に寄せられた事を契機として行われたものです。

「障関連」の主な行事は例年七月初旬に行われる「お話を聴く会」今年には東京パラリンピックマラソン銅メダルの堀越信司氏に「結果を追い求めて、信念を貫くということ」というお話をお話を聴きました。十月スポーツの日に掛かる連休に「ふれあいキャンプ」今年も井の頭公園近くのナザレの家で行われました。外濠教会グループと共催の「みんなで作るクリスマスパーティー」今年には十二月六日・目白聖公会で行われました。

前記三行事の他にも東京教区で行われた合同礼拝、NCC「障害者」と教会問題委員会（委員長日高馨輔執事）主催の「障がい者週間」の集いに点字資料の作成をしました。その他にも各種行事に手話通訳者の派遣、要約筆記グループによるプロジェクト投影をおこなつており

ます。

詳しくは行事ごとに各教会にお送りしているご案内または障関連HPをご参照ください。



障関連HP QRコード



教会委員、教区代議員の選挙

にあつて

二〇二五年度選挙管理委員会
二〇二六年度「教区会信徒代議員および教会委員選挙」は、十一月十六日（土）に公示されました。投票は二〇二五年十一月二十一日（金）から十二月二十一日（日）正午までです。この選挙は、日本聖公会法規（第一〇九条、第一一四条、第一五〇条、第一五六条）および聖アンデレ教会選挙実施規定に基づいて実施されます。日本聖公会の法規により、選挙権は、当教会に教籍があり、堅信を受けている十六歳以上の方で、過去一年以内に二回以上陪餐された方に、被選挙権は、選挙権を持つ二十歳以上の信徒に与えられています。教会は牧師さん一人で成り立っているのではありません。信徒全員とその中から選ばれた信徒代表となるような教会委員の総力で成り立っているのです。教会委員や信徒代議員の選挙については、このことを再認識する良いチャンスではないでしょうか。それらを意識することによって

「誰を選ぶ？」を考えることになるのでは……

教会は一つの家族です。ですから教会委員は様々な考えや意見をお持ちの方々と、老若男女で構成されるのが理想的。多様性という言葉がもてはやされていますが、委員経験豊富な男女のベテランさん、そして若い年代の男女のフレッシュマン委員などで組織されるのが理想的な姿です。

この方なら、あの方なら お任せできそう……と思われる方々を見極めて投票をお願いします。

詳しくは、公示の内容をご確認ください。

降臨節・降誕節のスケジュール

【二〇二五年】

十二月二日（日）降臨節第4主日

七時三〇分 聖餐式

十時三〇分 聖餐式

十三時三〇分 クリスマス子ども

礼拝（バジレント、祝会）

十二月二四日（水）降誕日前夕

十九時 唱詠による夕の礼拝

クリスマス・キャロルと

聖書日課の礼拝

二十二時 降誕日第一聖餐式

十二月二五日（木）降誕日

七時三〇分 降誕日第二聖餐式

十時三〇分 降誕日第三聖餐式

【二〇二六年】

一月一日（木）主イエス命名の日

七時三〇分 聖餐式

十時三〇分 聖餐式

一月四日（日）降誕後第二主日

九時十五分 子どもとともに

ささげる礼拝

十時三〇分 聖餐式

一月六日（火）顕現日

七時三〇分 聖餐式

コイノニア